

達古武地域における森林再生 ベースマップの作成と保全・再生優先度の検討 (3/10)
3-1. 完成したベースマップ (Ver.20030304) 植生区分図

●植生区分は、環境省区分をもとに本地域の植生にあった区分を用いた。植生の高さ・人為影響の程度・優占する植物の種類から16タイプに区分した。

- 落葉広葉樹林 (二次林) がもっとも多く面積を占めるが、北部を中心にカラマツの植林地も多い。
- 沢沿いや湿原周辺にはハンノキなどを主体とする湿性の広葉樹林が広がる。
- 裸地や草地などの無立木地は10%程度を占める。

表. 各種植生の面積

植生タイプ	面積 ha	割合%
乾性落葉広葉樹林 (ミズナラ群落など)	1877	44.7%
湿性落葉広葉樹林 (ハルニレーヤチダモ群落など)	106	2.5%
針広混交林	2	0.05%
湿地林 (ハンノキヤチダモ群落)	346	8.2%
湿原草地 (ヨシ群落など)	237	5.6%
落葉針葉樹人工林 (カラマツ植林地)	634	15.1%
常緑針葉樹人工林 (トドマツ植林地など)	167	4.0%
幼齢造林地	132	3.1%
伐採跡地	106	2.5%
二次草地 (ササ草原など)	135	3.2%
農地	101	2.4%
農地 (未利用)	61	1.5%
市街地	15	0.4%
造成地 (土取場など)	37	0.9%
裸地 (作業道など)・道路	90	2.1%
開放水面	157	3.7%
合計	4204	100.0%

自然林・
二次林 56%

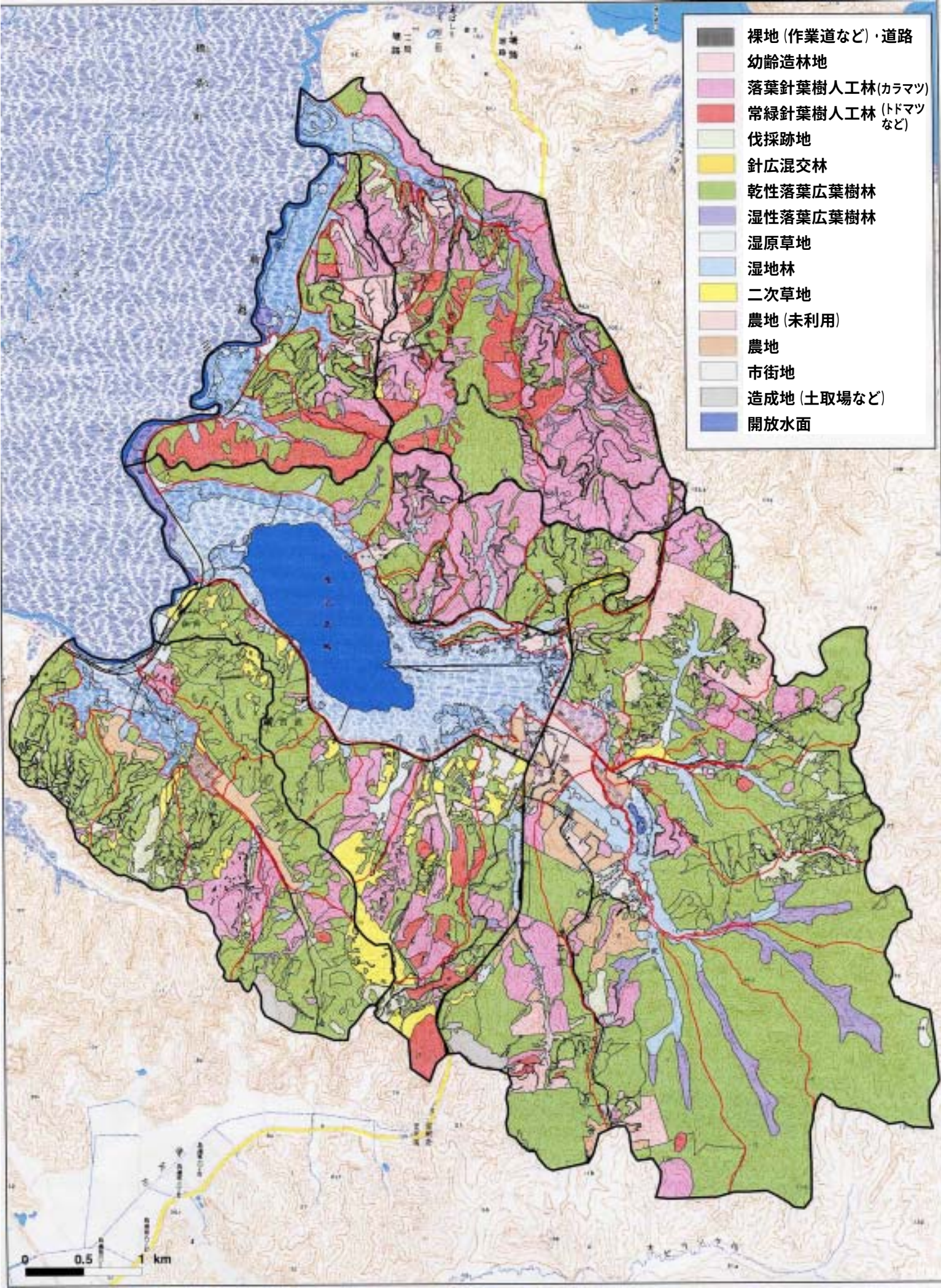
湿原・水面 9%

人工林 22%

草地 6%

農地 4%

裸地 3%



●主な植生の様子

◆カラマツ植林



◆トドマツ植林



◆落葉広葉樹林



◆湿地林 (ハンノキ林)



◆湿地草原 (ホザキシモツケ群落)

